

物流における環境への取り組み

東京エレクトロングループでは、物流における環境負荷の低減に向けて、省エネルギーおよび資源の有効活用観点から取り組みを行っています。

■ 物流についての考え方

2006年4月のエネルギーの使用の合理化に関する法律(以下、省エネ法)改正において物流への規制が強化されるなど、地球温暖化防止の観点から、物流の環境負荷低減に対する要求が高まっています。

当社グループでは、製品輸送用のトラックに低公害車を導入したり、納入用のコンテナを通い箱化したりするなど、物流における環境負荷低減を積極的に進めています。また、お客様への製品輸送は安全運行を最優先としています。



低公害トラックを導入

■ 物流における環境負荷

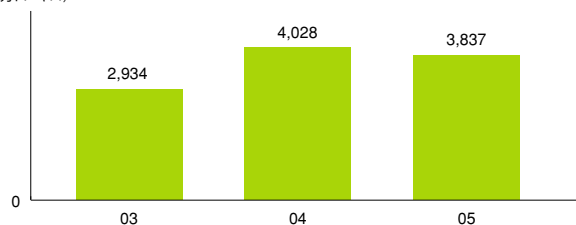
改正省エネ法により、年間3,000万トンキロ以上を輸送する荷主事業者は特定荷主に指定され、CO₂排出量の削減が求められることとなりました。

当社グループ全体での貨物輸送量(主要製品輸送量と輸送距離の積、単位:トンキロ)は、2005年度では2004年度よりやや減少しているものの、経年では増加傾向にあります。理由として考えられるのは、出荷台数の増加や、製品1台あたりの重量増加があげられます(右記「製品重量の変化」参照)。

当社グループの製品は精密機械であり、物流に際しては細心の注意が必要です。今後は輸送量や輸送距離の測定、輸送に伴うCO₂排出量算出の正確性をあげるとともに、削減に向けモーダルシフト化などの検討を行っていきます。また、2005年度から、国内の当社グループ社有車のガソリン・軽油使用量の把握も開始しました。

貨物輸送量の推移

(万トンキロ)



(国内主要製品、一定割合の積載量にて計算)

■ 製品重量の変化

当社グループ製品の大型化は年々進んでいます。FPD製造装置を例にあげると、約15年前の当社装置は重量約11トンで、トラック4台で十分に運ぶことができました。ところが最新型は総重量が約170トンにもなり、輸送には特殊なトラックと多くの車輛を必要とします。製造するFPD基板の大型化に伴い、装置も大型化しているためです。



FPD製造装置を輸送する特殊トラック

TOPICS

出荷時の梱包材削減とキャスターの再利用

従来、製品に付随するパーツ類はプラスチック容器に入れ、プラスチック容器ごとに梱包してお客様へ納入していましたが、現在はコンテナ全体を一括して梱包し、お客様へ出荷、納入しています。これによりプラスチック容器を使用しなくて済むようになり、包装資材使用量は半分に、緩衝材は10分の1になりました。結果として、出荷時の積載時間を短縮できたほか、お客様の保管スペースを削減でき、整理しやすくなるという効果もありました。

このほかにも、エッチングシステム装置本体を搬送するためのキャスターをお客様へ納入後、取り外して返送し、再利用しています。



納入用コンテナ



リユースキャスターの通い箱